



# しらかば

## 2017年春号 第36号

北海道中国帰国者支援・交流センター

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7

電話 011-252-3411 FAX011-252-3412 URL: <http://www.hokkaido-sien-center.jp> E-mail: [hokkaidocenter@dosyakyo.or.jp](mailto:hokkaidocenter@dosyakyo.or.jp)



### 中国帰国者新年交流会

### 春節を祝い、思いを集めて交流深める

中国のお正月「春節」を祝う恒例の中国帰国者新年交流会が、2月5日、東区民センターで開催されました。毎年の春節交流会を楽しみにしているという、100名を超える多くの帰国者の皆さんが集い、新年を祝い、交流を深めました。

中国帰国者の皆さんの多くは、帰国してすでに20年、30年という月日を過ごしてきました。皆さんの人生の思いを集めて集い、今を喜び、仲間同士の話も広がります。家族で参加した二世は、仕事を語り、子どもの成長を語ります。懐かしい中国式の会、その中国の雰囲気にも気持ちも安らぎ、会場は笑顔にあふれました。



### ボランティアの皆さんに支えられて

今年の交流会は、帰国者一世二世、そしてボランティアの皆さんが、力を合わせて会場を飾りつけ、テーブルを並べ、手作り料理も心を込めて準備しました。春節に欠かせない餃子は、中華調理師でもある二世松本君男さんの手によるもの、そしておいしい焼餅にも、皆さん大喜びでした。

そして楽しみの文芸発表、今年は一世代伊藤美代子さんが企画、進行を担当し、舞台では中国民族舞踊や中国の歌が繰り広げられ、色とりどりの衣装に会場も華やぎました。最後は、いつもの秧歌踊りで会場はひとつになり、大いに交流を広げ深めた一日になりました。帰国者の皆さんは、「今年はとくによかった」と語っていました。

今年もまたボランティアの皆さんに支えられ、みんなの力を合わせて開かれた新年交流会。喜びを分かち合う会になりました。



## 社会につながるきっかけ

### 帰国者のボランティア体験

中国・樺太帰国者有志が、ボランティア活動を体験しました。ボランティアとは、いわば縁の下の力持ちです。ひとつのイベントが、それなりの時間をかけ、たくさんの人たちが、小さいかもしれないけれどそれぞれの役割を果たすことで完成していく、その過程を体験する貴重な機会となりました。

また、帰国者にとってボランティア体験は、社会と関わるきっかけにもなるし、日本語力を試すチャンスでもあります。

### 札幌アジア冬季競技大会



冬季アジア大会は、「冬のオリンピックのアジア版」とも言われる総合国際スポーツ大会で、今年は2月19日から2月26日まで札幌で開催されました。

この大会に中国・樺太帰国者8名がボランティアとして参加し、会場入場時の手荷物検査や、空港での選手の出迎えなどを担当したほか、通訳ボランティアとして活躍した人もいました。また休憩時間には、他のボランティアさんとの交流も楽しむことができました。

特に今回は樺太帰国者2名が、ロシア語の通訳ボランティアに挑戦しましたが、人手が足りずひっぱりだこだったそうです。怪我人がでて医療通訳をしなければならなかったり、監督同士の電話での会話の通訳を頼まれるなど、思いがけない場面がいくつかありました。そんな中でも、なんとか通訳をこなせてしまったことが自分でも驚きだった、と二人は感想を語ってくれました。またセンターで医療クラス

に通っていたことも役に立ったそうです。

冬季アジア大会は大きな国際大会ですから、事前に研修があったり、分厚い資料が送られてきたりで、みんな初めは緊張していました。けれども実際にやってみれば、それほど難しいことではないと安心したようです。参加した帰国者は、「またやりたい、また来年も(?)やりたい」とボランティア活動に対する意欲がさらに湧き、自信もつけることができました。

### カレンダー市で今年も活躍



年初めに開かれた、札幌ユネスコ協会によるカレンダーリサイクル市のためのカレンダー仕分け作業を、去年に引き続き中国・樺太帰国者14名が手伝えました。昨年も参加した人は、もう慣れた様子できぱきと働いていました。作業の後、好きなカレンダーがもらえることも楽しみです。

カレンダー市の収益金は、「東日本大震災子ども支援」等の活動に充てられます。作業をしながら、様々な人と関わりとともに、社会貢献もできた時間でした。

## 旭川・おしゃべり交流会

おなじょうに生活して仲良くなる

活動の5年間を振り返っておしゃべり



旭川市でのボランティアの皆さんとの「おしゃべり交流会」は5年になります。帰国者の地域での生活の安心を、そしてお互いに学び、理解を深め豊かな人生を、と交流を進めてきました。

3月9日、これまでの活動を振り返り、次のステップを考えてみようとおしゃべりました。

これまでの研修会や帰国者の話を聞く会で「戦争について、封印されていない生の声を聞き、強い印象を受けた。ものすごくよかった」、「別の面からの見方ができるようになった。気づかせてくれてよかった」という感想や、交流を通じて「帰国者やボランティアの方の話をもっと聞きたい。いろいろな人の話を聞くことは大事。人というのはインプットをやめたらだめ」、「地域になじめないマイノリティである帰国者をつぶすのではなく、同じように生活し、お互いに仲良くなるのが大事」、「みんなで輪になっておしゃべりをしたり、食べることが一番大事だと思う」などの意見のほか、「帰国者の隣近所付き合いはどんな風なのだろう。もし、あまり付き合いがないようなら、ボランティアとの連絡網をつくってはどうか」と身近な交流、サポートについての提案もありました。

中国帰国者の林さんは、「皆さんから教えてもらって、もっともっと勉強します」と語り、そんな林さんに対して、尊敬できる立派な方という声も出ていました。交流を通して得られたものは多く、皆さん

の心を支える力になっています。

今回は、はじめてのボランティア3名も参加、満州引揚を体験した人、また職業訓練校で帰国者を教えた、という人もいて、今後の交流もさらに広がります。

来年は春を迎えて、かたくりの花を見に行こうという計画も。意欲あふれるおしゃべり会議になりました。

## 料理交流会

かざのりまき ちょうせん 飾り海苔巻に挑戦



「孫につくってあげたい」

日本の料理を学びながら交流する料理交流会が、1月23日、ボランティアの皆さんを含む32名が参加して開かれました。前回7月のおはぎに続いて、今回は飾り海苔巻をつくりました。



海苔巻は中国にもロシアにもない料理だけに、挑戦するのは初めて、という人もいて、興味深げに取り組んでいました。

飾り海苔巻は、ふりかけや桜でんぶで色を付けた細巻きを花びらに、たくあん漬けや蟹かまぼこなどを花の芯に見立てて、全部いっしょに白いご飯で巻いてつくりまわす。切るとお花のかたちになるとわかり、みんな二本目は一本目よりきれいにつくりまわすことができました。

帰国者もボランティアの皆さんも、自分の海苔巻づくりで一生涯懸命で、会話が途切れる場面もありましたが、「難しかったけれど楽しかった」、「孫が海苔巻が大好きなので、つくってあげたい」と満足そうでした。



エヌピーオー NPOシーズネット・介護サロン&お茶サロン

まいかい た さい こうりゆう あたら ひと 毎回多彩な交流、新しい人も

高齢化問題と取り組むエヌピーオーシーズネットへの委託事業「介護予防サロン」が、厚別区もみじ台団地と手稲区前田団地で活発に続いています。

二つの会場は、いつも明るく笑顔にあふれ、いきいきとみんなの活力が引き出されます。帰国者の皆さんは、心から楽しみのびのび。

ラダー運動は「身体を動かす、頭も使えて、面白い」と挑戦します。まっすぐ歩くことさえおぼつかなかった0さんも、いまではしっかりと柵の中を歩けます。指導する竹田先生も、驚き感心しています。老化を防ぎ、脳の活性化をめざす運動に、会場に歓声が広がりました。

3月からは、看護師が来て血圧測定の健康チェックや、食べたり飲んだりするときむせないようにという講話もあって、役に立つ知識も学びました。

ひろ りかい ちいき あんしんささ 広がる理解で地域の安心支える

運動が終わったあとの「お茶サロン」もおしゃべりがはずみます。担当の青木さんは、いつも新たな参加者に呼びかけ、地域の皆さんとの交流を通じて、帰国者理解が広がります。帰国者の皆さんも、多彩で飽きさせない企画や体験を通して、理解を深めています。

厚別会場も手稲会場も、帰国者の皆さんに「もっと回数を楽しんで」と大好評で、地域の生活に安心が広がります。

5月・6月・7月の行事

5月12日	健康運動教室
5月14日	DVD上映会
6月16日	健康運動教室
6月下旬～7月上旬	さくらんぼ狩り
7月9日	DVD上映会
7月14日	健康運動教室

しんがく 進学ニュース

からふと き こくしゃ めい だいがくごうかく 権太帰国者2名が大学合格

今年の春も、また明るいニュースが届きました。権太帰国者三世のKくんが東海大学の国際文化学科に、同じく三世のHくんが、ロシア極東連邦総合大学函館校に合格しました。Hくんは、母語であるロシア語を基礎からきちんと勉強したいと考えて、ロシアの大学を選びました。また、Kくんも第二外国語としてロシア語を選択しました。

将来に向けて、自分自身が持つ可能性を、彼らはさらに広げようとしています。心から応援したいと思います。

とうこうだい ぼしゅう 投稿大募集!

帰国者の皆さんの作文、詩、エッセイ、物語のほか写真等の作品をお待ちしています。日本語・中国語・ロシア語の作品を受け付けます。「しらかば」に載せてほしい作品を郵送、または直接センターにご持参下さい。

※紙面の都合上、掲載できない場合もありますのでご了承ください。

投稿大征集!

中心季刊「しらかば」向各位帰国者征集作文，诗歌，散文，小说，照片等投稿作品。日语，汉语，俄语不限。请把应征作品邮寄或直接提交中心。

※由于版面有限，或许有不适登载的作品，请谅解。

Ждем ваших произведений!

Присылайте нам свои сочинения, стихотворения, прозы, фотографии и т.д. по почте или по факсу, или занесите лично в центр. Мы принимаем рукописи на японском, китайском и русском языках. Они будут напечатаны в нашем вестнике «Сиракаба».

※Не все произведения, присланные вами могут быть напечатаны из-за недостатка места. Просим вашего понимания.